

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題としてみてください。会話が広がります。

令和8年1月23日(金)

みんなの居場所

雑感

大寒を過ぎてからは、何となく春を感じているものの、朝の冷え込みが強い日はとうとうも背中が丸くなる。春が待ち遠しい、今が正に三寒四温の時期であつた。

この時期になるとスタートする仕事がある。卒業証書の準備、来年度学校運営構想の提示、多くの仕事がある中で大切にしていることは、卒業生へ贈る言葉の準備だ。私にとってはすべてが教える一人、その一人をみて、将来を想像し、全員に違う言葉を選定する。それを色紙にしたため、卒業記念として心を込めて書く。私の自己満足なのかもしれないが、それくらいしか私にはできない。書道をやっている時期だけは改めて思う。卒業生の未来を祈り、書き綴る。

私の中学時代 その③ く音楽に興味をもち始めた

中学校に入學してから暫くは生活リズムに馴染むことができた。少々面食らって生活していた私ですが、慣れてくる少年から青年への脱皮を目指し、行動範囲、交友範囲を広げていきました。小学校時代から興味のあった野球は、もともと中一の頃から興味を持っていたのは音楽です。その頃は確か山口百恵さんが引退前、ピンクレディーが人気絶頂の頃でした。更には松田聖子さんや中森明菜さん、小泉今日子さんが相次いでデビューして来る頃です。しかしながら当時の私は、いわゆるアイドルといわれる方々には多少は興味があったものの、先ず興味が出てきたのは映画音楽でした。実は5年生から6年生だった頃「スター・ウォーズ」という映画を観たんです。その物語に感動し、ついでに音楽にも興味が出たといわけですが、映画音楽については映画を観る暇もお金もないので、立ち消えするのですが、私の通った南中学校は下校時のBGMがビートルズの「レット・イット・ビー」だったんです。これがいつでも鼻歌として出てくるようになって、「誰の歌だろ」とか考えているうちに、周りの仲間がいゆるるトク(今の予は知らないでしゅね)を賞し借りするようになり、「俺も録音して」なんて頼むようになりました。当時「コンポ・ネット・ステレオ」などは一部の家庭にしかなく、その仲間の家に借りたLPを持ち込んで、カセットテープに録音してもらったのです。そしてそれを家にあった、壊れる一歩手前くらいのラジカセで聞けました。テープを巻き込んだりしないようにならなみをとったりして、慎重に再生ボタンを押していたのを覚えています。録音のレベルが低すぎたり高すぎたりするの聞きにくいので、また友達に頼んで録音しなおして…。当時はエプソンクなんて言葉もありましたね。ビートルズは今でも聞いています。学年が進むにつれ、中学2年生の頃は長瀬剛はかり聞いていたようです。

この頃から新たに興味を持ち始めたのがラジオの深夜放送でした。当時は空前の漫才ブームで、ビートたけし(北野武)さんの番組が一番面白かったような気がします。今もこの番組を聴きたいですね。

中学時代というのは多くのものに興味を持ち、少し背伸びして大人に反抗していく、越えようとしていく時期ですね。今の小学生は少し情報が多すぎて、逆に、何に興味を持っていいのかわからない、興味を持っても長続きしないという状況が続いているようです。私達からすると、少し可愛そうな時代なのかもしれません。でも、後ろ向きな考え方では、子ども達を導くことはできません。私達大人は、子ども達に色々なことに興味を持たせるには、責任がもたせません。あれもダメこれもダメではなく、情報の取扱選択をさせながら、間違った時は指導しながら、多くの経験させていくことが大切です。保護者の皆様「これから数年間、子ども達の予期せぬ興味関心に、驚かぬよう」。

シリーズ「自分を語る」#69

伊倉小学校は運動となり、気持ちの新たに挨拶に向かいました。校門を抜けます。「フッ、花が多い」といつ印象でした。きつと落着いた学校だと思いましたが、そう簡単にはいきませんでしたね。

校長室に入り、当時の校長先生と世間話をしながら、気になっていた話題には触れませんでしたね。気になっていた話には担任諸君のことです。私は玉置町小学校で高学年の担任しが経験がありませんでしたから、当然そうなるものと思っていました。が、逆転の学年だったというところから不安もありました。校長先生は一度退職といっていて、私はそのあと教頭先生とお話するようになりました。教頭先生から切りの出されたのが学級担任のお話でした。

「澤田先生、3年生を担任して頂けませんか。」

いやいや、この時はかなり面喰っていました。どうしてだろいのか分かりませんでしたね。でも、どうも通じが通じないのか、子ども達の笑顔や、等々、不安も相まって「私の希望はあくまで高学年です。」なんて言って伊倉小学校を後にしました。程なくして、新校長先生から連絡がありました。

「学校運営上、どうしても澤田先生に3年生を譲ってほしい。」

学校運営上ですから、受けない訳にはいきませんでした。何でも、2年生の時はおカフスで、かなりのやんちゃなカフスだったのに、そのころ3年生になって1カフスになる。300名のカフスになるといってのことです。その時学かんだ言葉が、玉置町小学校の校長先生からの言葉

「求められての異動です。」

でした。この頃、自分に求められているもの、自分だけの小さなパフォーマンスができるのか、そんな疑問の答えをいつも考えていました。不安を煽る異動でしたので、もしかしたら自分に求められていることは、これまで行ってきた「学級経営」かもしれないと思つたようになりました。しかし、私は5・6年生の学級担任には多少なりとも方法論を持っていたと思っていましたが、それ以外の学年は自信がありませんでした。それからしばらく悩みましたが、「開き直るしかない」とこの結論に至り、3年生の学級経営の本を買い、精神的な発達について学びました。またまた勉強しないといけないなと改めて思いつくわけとなり、私にとっては良い経験の3年生担任でした。しかし、色々な本を読めば読むほど、ある種のマーカーが私に付まってきたことになりました。その疑問はいつか。

「高学年でも、低学年でも、学級経営の方法はあまり変わらないかも。」4月、3年生担任として、出会いを前に着々と準備を整えていきました。いよいよ新年度始業式の日を迎えました。当時のことを少し、始業式というのに驚かして、儀式というのに子ども達の緊張感の無さが気になりました。そんな中、新職員の紹介と学級担任発表が行われました。(つづく)